

戦犯キッシンジャーを庇うジョン・マケイン

平和統一 NEWS No. 79 (2015/3月号)

渡辺 久義

私は「どちらが“人間のクズ”？ キッシンジャーか抗議者か」という翻訳記事を、2月3日、創造デザイン学会サイトに載せた。[\(どちらが人間のクズ?.pdf\)](#) これを読み、ビデオを見ていただければわかる通り、1月29日、ジョン・マケインが司会する上院公聴会に、キッシンジャーが入場したところを狙って、数名の活動家が「ヘンリー・キッシンジャーを戦争犯罪で逮捕せよ」と書いたプラカードを掲げて乱入し、一人の女性は手錠を見せながらキッシンジャーに接近するという一幕があった。この連中は手荒なことをしたわけではなく、これを数回連呼しただけで、1分ぐらいでおとなしく退出した。

マケインがキッシンジャーに謝罪するのは当然としても、必要以上に大げさな、卑屈とも言える謝罪で、抗議者たちを「人間のクズども」と呼んだ。[\(You low-life scum!](#) というのは「人間のクズめ！」という感じであろう。) もしこの一言がなければ、これは大した話題にならなかったかもしれない。これはマケインの、キッシンジャーと同じ穴のムジナとしての、自己弁護であることをよく表している。マケインは、停戦協定にもかかわらず、もっと強力な武器をウクライナ政府に送って、戦争を継続させたがっている米政府の一人である。[\(マケイン.pdf\)](#) そこで、この文章の筆者は、ではどちらが“人間のクズ”なのかと、キッシンジャーの“戦犯”としての罪状を詳しく暴いている。

キッシンジャーが、どういう思想の持ち主であるかがよくわかる一文がここにある。これは警世家の一人デイヴィド・アイクの講演ビデオで知った、1991年の発言である――

今日、アメリカは、もし国連軍が、秩序を回復させるためにロサンゼルスに入ってきたら、ひどく腹を立てるであろう。しかし翌日には彼らは感謝するだろう。これは特に、もし彼らが、それが現実であろうと宣伝であろうと、我々の存在そのものを脅かす、外部からの脅威が存在するのだと教えられたら、なおさらであろう。このシナリオを与えられたら、個人の人権は、世界政府によって彼らに与えられる、彼らの安寧を保障する約束と引き換えに、喜んで手放されるであろう。

これは現在、アメリカ（とヨーロッパのアメリカ追随国）が「テロとの戦い」という名目で

ずっと行っている戦争を、よく説明している。現実には、IS 集団がアメリカを侵略することなどありえないが、そのような口実を設けて危機感を煽り立て、警察国家を作らなければならない。この警察国家は人民の「安寧を保証する」が、その引き換えに「個人の人権」を没収することを要求する。そしてこの警察国家の概念が、世界全体に応用されると、それは「世界政府」の樹立を要求し、これが彼らの究極の狙いである New World Order (新世界秩序) である。それは、他の諸国では次々と成功している政権交代戦略に、絶対に乗ってこないロシア (プーチン政権) を叩き潰すことを要求する。これがウクライナを中心として今起こっている、第三次大戦含みの攻防の、核心にあるものと考えてよい。

キッシンジャーのこの言葉は、先月号のこの欄の結びのところで引用したデイヴィド・ロックフェラーや、「イルミナティの目標 25 項目」の言葉に、ぴったり寄り添うものである。もう一度引用すると、「我々は地球的な大変革の変わり目にいる。我々が必要としているのは正しい種類の危機だけである。それがあれば、諸国家は NWO を受け入れるであろう。」(D・ロックフェラー) この「正しい種類の危機」が、オバマ政権では、IS 過激派集団であり、ロシアの脅威である。前者は「現実」だが、もともとアメリカが作ったもので、凶暴であるほど都合がよく、後者は全く「宣伝」によるものである。オバマたちはこのように「トラウマ的な状況をつくり出した後で、作った者自身が進み出て、民衆の救済者のように見せかける」(イルミナティ目標) 目論見でいる。我々が問題を解決してあげるから、もう心配しなくてよい、その代り、自分の勝手な考えや行動は許さない、そういう者はテロリストとみなす、と言っているのである。これをファシズム体制というが、それが見え見えであるだけに、彼らは破れかぶれでもある。そしてメディアは必死にそれを隠している。

キッシンジャーのこの言葉はまた、ドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』の中に出てくる想像上の劇「大審問官」挿話の、大審問官のセリフに似ている。彼は民衆に対して、キリストから与えられたお前たちの「自由」などは、さぞかし重荷であろう。そんな厄介なものはいかに我々に預けるがよい、その代りパンだけは保証してやるから安心せよ、と言って、民衆を魂の抜かれた家畜にしようとする。「個人の人権を喜んで手放す」という表現が、ほとんどそのまま出てくる。

そしてこれは今、現実に行っている。全人類をコントロールするための RFID マイクロチップ埋め込み計画は、ひそかに着々と進んでいる。